

記者会見質疑応答

日 時 令和7年9月25日（木）午前10時から
場 所 第2応接室
出席者 ○市 側：市長、木村副市長、町田副市長、総合政策部長
○記者側：9社9名参加
発表内容 ・Jリーグ夏季キャンプの誘致について

<案件について>

○苫小牧民報社

キャンプの期間は決まっていたりするのですか。

■市長

具体的な期間は決まっておりませんが、開幕時期が来年の8月ということですので、それを踏まえた日程になろうかと思っております。

○苫小牧民報社

だいたい2、3週間という想定でいいのですか。

■市長

はい、そういうことです。

○苫小牧民報社

その間の例えば市民や地元クラブの子どもたちとの交流などといったものは想定されていますか。

■市長

名古屋グランパスさんとは、そういったものも含めての広がりができる限り持たせたいという話はこれまでもしておりますので、今、具体的に申し上げることはできませんけれども、そういったものも含めて、これから具体的に決まってくるものと思っております。

○苫小牧民報社

交渉の中で、宿泊や食事の面の課題があると思うのですが、その点はどうかクリアできているのでしょうか。

■市長

わりと細かく場所や食事、お風呂、グラウンドとの距離等を含めて協議をしてまいりましたけれども、その点について部長からお答えします。

■総合政策部長

当然、クラブからはいろいろと要望が出されて、それがかなえられるかどうかというのは、ホテルでしたり、クリーニング店などと調整してまいりました。

まだ、100%要求をかなえられる状況ではないのですが、少しずつクラブが求めるものに近づいていけばいいという言葉もいただいていますので、合格点が出たのかなと思っています。

私どもも引き続きクラブが求めるものを達成できるように、少しずつ支援をしていきたいなと思っています。

○苫小牧民報社

他のチームと距離的に、例えばトレーニングマッチの距離でだいたい1時間ぐらいというところもあると思うのですが、何かそういう部分はクリアできているのでしょうか。

■市長

新聞報道にもいろいろ出ておりますけれども、どういうチームがどこに合宿を決められるかというのはこれからだと思いますけれども、それによってグランパスさんも試合をする相手が決まってくると思いますので、できる限りいろいろなチームが集積してくれたら、それはもっとグランパスさんが苫小牧で合宿を決めていただいた意義が、より大きくなってくるものと思いますので、その辺はクラブおよび他のまちの動きも注視していきたいと思っています。

○苫小牧民報社

ちなみにグランパスさん以外に来る予定というのは今のところないのでしょうか。

■市長

今のところはないです。

○北海道新聞社

前回は苫小牧に来ていたと今市長はおっしゃられていたと思うのですが、前回名古屋グランパスさんが来られたのはいつになりますでしょうか。

■市長

結構前です。

■総合政策部長

1995 年、1996 年に。

○北海道新聞社

今回、苫小牧が選ばれた理由として、夏の涼しい気候と交通アクセスの優位性ということだったのですが、このアクセスというのはやはり新千歳空港から近いというようなところになるのでしょうか。

■市長

そうですね。空港からのアクセスもそうですが、中央インターチェンジからすぐグラウンドがあるというところも非常に大きなものだったと思いますし、先ほど申し上げましたホテルの関係、こういったものも含めてご評価いただいたのかなと思います。

○北海道新聞社

名古屋グランパスさんは市内のどこを中心に練習をするというのはもう決まっていっしゃるのでしょうか。

■総合政策部長

TOMASE I フットボールフィールドです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

今回の誘致でいっしゃる想定人数がどのくらいなのかということと、今回実施した後に、また来年もその後も継続して利用されるという可能性があるのかどうかということ、グラウンドの整備等何か必要になることがあるのか、またその予算、財源、どのようにお考えになっているのかといったことをお伺いしたいです。

■市長

グランパスさんとは今回の決定に至るまでに、お互いにより良いキャンプのあり方、会場も含めてですけど、それを今すぐというよりも、徐々に作り上げていまいしょうと、お互いにそういったところが非常に合致した部分でありまして、過去、グランパスさんがここで合宿を組んでいただいたこともありましたけれども、改めて今回始めるにあたってはグランパスさんから求められているものもありますし、そこに我々もできる限り毎年環境整備には力を入れていながら、最終的に求められる形になっていくというところを目指しております。

そういった意味においてはグラウンドの環境整備のみならず、先ほどのクリーニング、洗濯や、いろいろなものを含めて先方からの要望要請もありますので、そういうところにおける限り応えていけるように、しっかりと情報交換をしながら、サポートしていきたいと思っております。

■総合政策部長

人数ですが、選手 30 人、スタッフ 30 人の約 60 人ということです。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

市の財源が厳しいものがあるといろいろと諦めなくてはいけないこともある中で、今後とも整備費ですとか、例えばグラウンド整備をしたら人も必要になるでしょうし、そういった面での財源はどのように考えていらっしゃるのか、また駐車場の整備なんかも必要になるのかなとも思いますので、その点はいかがかというのを最後に確認させていただければと思います。

■市長

財源については、市の公共施設のあり方を含めて、これから様々な見直しを図っていかなければいけないと思っておりますし、来年度に向けてふるさと納税の体制強化も行っていきたいとは思っておりますが、そういった形での財源確保をしながらも、子どもたちあるいは市民に対して夢や希望ですとか、わくわくするようなことを提供していることについては、しっかりと財源をつけて、事業を実施していくということは、これは市民の求めでもあると思っておりますし、ただ一方で、しっかりとそういった財源づくりを進めるという、両輪で行っていくことだと思っております。

○読売新聞社

経済効果的なものは何か試算などしておりますか。

■総合政策部長

担当レベルでの試算になりますけれども、おおよそ 1 年間の経済効果は 7800 万円ほど。これはアイスホッケーでこれまでの実績であったり、そういうことをみたときに、大体これぐらいになるのではないかと、荒々の計算をしています。

○読売新聞社

それは先ほどおっしゃった夏場の 2、3 週間でということですか。

■総合政策部長

はい、そうです。

○読売新聞社

先ほど先方からの要望で、宿、あとクリーニングというのが出ていましたけれど、宿はわかるのですが、クリーニングはなにか重要なのでしょうか。

■総合政策部長

やはり毎日練習をしますので、練習が終わった後の洗濯というのは大量に出るものですから、そこをさばける体制作りを取らなければならないというところに課題があります。

○読売新聞社

それは市内のクリーニング店さんをお願いするのでしょうか。

■総合政策部長

そうですね。お願いすることにはなりますけれど、回収するのか、持ち込むのかですとか、そういった細かいところというのは、今後打ち合わせをしていくと思います。

○読売新聞社

その他に、先方と毎年何年かかけて課題を解決していこうということだと思うのですが、大きな課題、こうすべきというようなものはあるのでしょうか。

■総合政策部長

やはり一番は施設だと思いますので、現在のサッカーグラウンドの芝の状態ですとか、そういうところは徐々に毎年何かしら改善を加えるように、私どもとしては努力していきたいと思っています。

○読売新聞社

今は天然芝ですね。

■総合政策部長

天然芝を使っています。

○読売新聞社

それを毎年入れ替えるとかそういうことでしょうか。

■総合政策部長

入れ替えるわけではないのですが、ただ今ちょっとクローバーが生えていたり、ラグビーと共用しているので、ラグビーのポールが立つところにちょっと段差があるですとか、そういったところは調整して使えるようにしていくという調整をします。

○読売新聞社

先ほど経済効果で 7800 万円ということですけど、逆に年どれくらい支出が新たに必要かみたいな、そういう試算もあるのでしょうか。

■総合政策部長

細かいところまでは試算しておりません。一時期全部芝を張り替えたとしたら、3億かかるという話があったのですが、そこまでは必要ないという判断をいただきましたので、出来る範囲でやっていきたいと思っております。

○紙の街の小さな新聞社ひらく

先ほど質問した、来年以降はどうかという部分についての見通しをお伺いしたいのですが。

■総合政策部長

グランパスさんから、長く市とお付き合いしたいというようなお話もいただいていますので、1年、2年ということではなく、長い期間、私どもも長くいていただけるような努力をして、できる限りグランパスさんと苫小牧の関係を長く続けていきたいと思っています。

<その他 案件以外について>

○苫小牧民報社

北海道日本ハムファイターズ2軍誘致の関係だったのですが、今、別会場で期成会が立ち上がって、これから要望書を持ってくるということなのですが、苫小牧市における現状の土地とか、そういう財源の課題というのは、今のところどのように捉えていますか。

■市長

この件については、私がこの記者会見でチャレンジを表明させていただいたときからずっと変わりませんが、一定の土地を適正な場所に用意できるかということと、公的な投入の額がどれくらいになるかということ、このあたりが非常に大きなキーポイントだと思っております。その点はファイターズさんとも事務レベルも含めて協議を重ねておりますけれども、ここでお話することはできないのですが、そういった点についてこれまで協議を進めてきております。

○苫小牧民報社

他のまちでも挑戦を表明している場所があると思うのですが、勝算みたいなものはどうでしょうか。

■市長

勝算は正直わかりません。ただ、どのまちも、そう簡単な話ではないと思います。

どこも土地と公的な財源をどこまで用意できるかというところは同じ大きなハードルでもあり、ポイントだと思っておりますので、我々としては可能な限りベストの提案をできるように、ファイターズさんと、あるいは関係する事業者さん等々と、協議を重ねていきたいと思っております。

○STV

今、別会場で期成会の立ち上げが行われ、昨日もむかわ町長さんが表敬に来られておりますけれども、改めてここまで近隣のまちも活気づいてきて、期成会も立ち上がって、ここまでの動き、市長どのようにみられていますでしょうか。

■市長

まずファイターズの2軍施設誘致に関しましては、私が表明したあとすぐに苫小牧商工会議所の皆さんを中心に期成会立ち上げの動きをとっていただきまして、これは苫小牧商工会議所さんだけではなく、この1市4町あるいは胆振まで拡大を視野に入れた広がりを持たせようとしていただいておりますので、これまでの白老町さん、あるいは昨日のむかわ町さんも含めて、こういった動きをとっていただけることは大変ありがたいことだと思っております。

○STV

市長ご自身、ファイターズの2軍施設誘致に向けて盛り上がってきたなという印象は受けられてますでしょうか。また、引き続きどのように誘致に向けて取り組んでいきたいか、言える範囲でお願いします。

■市長

今ちょうど敬老会が市内の各地で実施されておりますけれども、私も10数カ所お邪魔する先々で、ファイターズ2軍施設の誘致は絶対やってほしいと言われますので、まず市民の皆さんの意識といいますか、機運の高まりというのは非常に感じております。

あとやはり我々の最大の特徴としては、単独自治体ではなくて、東胆振1市4町という広域で誘致活動に取り組めるような流れができておりますので、そういった機運の醸成も非常に強く感じておりますので、これからますます目標達成に向けて頑張っていきたいと思っております。